

■（４５）速記？ 記者のノート秘密を少し

「お手元の記者のノートを見せてもらえませんか」。小学校の社会科の先生たちの研修会の講師を終えた際、質問に立った男性教諭からお願いされた。取材用ではなく、その日の講演用だったのでお断りしたが、あらためて記者のノートについて話してみたい。

相手の話をメモに取ることは、取材の基本だ。書き方にルールはないが、各記者は工夫している。わざと余白を空けながら書いていくタイプが多いようだ。見開いた左ページだけとか、１ページの左半分だけにメモしていく。実は、ひとの話し言葉は散漫だ。行きつ戻りつ、時にはそれたりもする。となると、話の順番にびっしり書くと、メモもまとまらない。そこで余白が有効になる。相手の話が戻った場合、元の話を書いた場所の近くに加筆することができるからだ。余白も含めてびっしり書かれた話が、重要と一目でわかる。

最近はＩＣレコーダーで会話を録音する記者もいる。その場でパソコンに打ち込むＩＴ記者もいる。が、後から書き換えられないノートは今でも最高の取材手段だ。ところで、素早く書き込む文字は「速記」と思う人もいる。まず違います。私は字が汚いだけです（山）